

虹の架橋

今月の題字 田川英二さん

(みどり市東町)

みどり市は総面積の8割が森林です。その森林資源の利活用に取り組む「わたらせ森林組合」の組合長でもある田川さんとは十数年来のお付き合いになります。

虹の架橋

↑検索

で、インターネットからでもご覧いただけます。

第六回富弘美術館詩画の公募展

いのちの尊さ・いのちの輝き

絵と言葉(詩文)を一つの画面に収め、絵が言葉を生かし、言葉が絵を生かしている画文一体の「詩画」という表現を現代芸術の新たな表現形式として普及させるために、第六回富弘美術館の詩画の公募展が開催されました。



大賞「全力で息せよ!!」廣瀬香緒里さん(横浜市)



今年のみどり市内の小中学生と三十五都道府県から二八七八点の応募があり、審査の結果、みどり市小学生の部の大賞に金子葵音さん(笠懸小三年)の「わたしたちの大切な家族」、みどり市中学生の部の大賞に青木美乃里さん(東中三年)の「記憶のいちまい」が選ばれ、一般の部大賞には廣瀬香緒里さんの作品が選ばれました。大賞、優秀賞、奨励賞の表彰式は十二月八日(土)午後二時半から富弘美術館で開催されます。一般の部は入選者七四名を含めて八〇名の作品を十一月二七日から翌年二月二四日まで館内に展示しています。小中学生の部の二九五五点の全作品も前期、中期、後期に分けて展示いたします。

心は天につながっている



小耳にはさんだ

いい話
(文責・菊) 《280》

親友の日笠敏美さんから「生命尊重ニュース」という冊子を毎月送っていただいています。今月の記事の中に、ダウン症の書家・金澤翔子さんのお母様の金澤泰子さんが「京都いのちの講演会」で講演をされた「心は天につながっている」というお話が紹介されています。

金澤泰子さんは四十二歳の時に翔子さんを授かりましたが生後四十二日目に医師から「この子はダウン症で知能が低く、歩けないでしょう」と告げられ、

絶望のどん底に突き落とされたそうです。翔子さんが書道をはじめたのは小学三年の頃からでした。書道教室の先生でもあった泰子さんは翔子さんとを課しました。翔子さんは叱られながらも書き続けた結果、楷書の基礎を身につけていました。この時の涙の跡が残っている作品が翔子さんの書の中が一番人気の「涙の般若心経」という作品だそうです。

二〇一三年の東京国体の開会式で翔子さんは天皇皇后両陛下と四万人の観客の前で、五メートル四方の紙に「夢」という字を書くことになりました。自分の背丈よりも高い二十キロの重さの筆を使って一気に書き上げた「夢」は、多くの人たちに生きる勇氣と感動を与えてくれました。

二〇一五年、ニューヨークの国連本部で開かれた「世界ダウン症の日記念会議」の席で翔子さんは日本代表として感動のスピーチをしました。「私は書家です。十四歳の時お父様が急な病気で亡くなりました。私の胸の中にいます。『うまく書けますように』とお父様に祈って書いています。お母様と一緒にたくさんたくさん書きました。お母様へ お母様のお腹の

世界一小さな 足利屋 トイレ美術館



今日の絵はがき ≪一八〇≫
谷口ようこさん『だっこ』

先日、大間々町高津戸のギャラリ「男蔵」で谷口ようこさんと再会しました。二十年前に手漉き和紙の人形作家・谷口さんと出会い、谷口さんの温かい人柄と作品に惹かれ、十六年前には足利屋で作品展も開催しました。「だっこ」という作品には『お母さんだっこ! 思いきり甘える幼い子。そして、それを受けとめる優しい手。きつとすっごく、暖かいだろうね』という詩が添えられています。足利屋休憩コーナーで谷口さんの作品集『いつくしみ』もご覧いただけます。先着十名様に絵はがきを進呈!

靖ちゃん日記

十一月十四日(水)

富弘美術館詩画の公募展のチラシの入選者一覧の中に松崎靖の名前が載った。作品名は「亭主関白 & かかあ天下」。赤城山を背景に操り人形の弁慶が手のひらの上で強かっている絵に詩を添えた。「思い起こせばあの頃は、君か天使で僕は、ペ天使言葉巧みに気をひいて僕の女房になっちゃった。あれから教えて四十年、亭主関白・内弁慶、オウはオウエの手のひらの、広れえ世界で放し飼いの言葉巧みに赤けえ糸引いちゃゆるめる神のわざ、今じゃオウエは上州一の、かかあ天下になったんべー」と上州弁で綴った。九年前に「全国亭主関白協会(全亭協)」の四段を取得した。全亭協の目的は、「いかに上手に女房の尻に敷かれるか」と研究し実践すること。亭主とは、もてます人。関白とは、天皇である力ミさん。禰佐する役。わかっているから女房の言うことは聞かず「その手に乗るか」と思うが、気づけばいつも手のひらの上。

西郷どんの菊形も潔し



ながめ公園で開催された関東菊花大会が好評のうちを終りました。今年の菊人形は大河ドラマ「西郷どん」の一場面を再現。多くの人が西郷どんの前で記念写真を撮っていました。一年間手塩にかけた菊が美しく咲き誇るのはほんの数日。西郷どんも多くの人に慕われながら、わずか四十九年の短い生涯でした。西郷隆盛が愛読した「言志後録」という本の中に「春風を以つて人に接し、秋霜を以つて自ら肅(つ)む」という言葉があります。西郷隆盛はまさにその通りの生き方を貫いた人だったようです。

第二八一号は一月一日(火)発行予定です。

♡ やつちゃんの似顔絵提供…ひさかさん